



3 ながくい

数字の小道

すうじの
こみち

②就職内定率について

総務部調査企画課

沖縄県における新規学卒者の就職内定率の推移をみると、平成3年3月末現在では高卒者85.7%、大卒者79.8%を示していたものの、景気の低迷とともに、高卒者に関しては平成12年3月末現在56.6%、大卒者に関しては平成8年3月末現在47.4%まで低下しました。その後、全国的な景気回復が見られる中で、平成18年3月末には高卒者87.3%、大卒者70.0%まで改善しています（図1）。

しかしながら、若年者失業率（15～29歳）は平成17年で全国平均7.4%に対して13.9%と著しく高くなっています。また、文部科学省が公表している平成17年度学校基本調査によると、新規高卒無業者の割合は、全国平均6.6%に対して沖縄県では3倍以上の20.9%、新規大卒無業者の割合は全国平均17.8%に対して、沖縄県では倍以上の41.5%に及んでいます（図2・3）。

国では、若年労働者の雇用促進や職業能力の開発に向けて、沖縄県と一体となって沖縄振興計画のアクションプランである「職業安定計画」に沿って各種支援措置を実施しています。若年労働者の雇用の促進については、沖縄若年者雇用奨

沖縄県における新規学卒者の就職内定率の推移をみると、平成3年3月末現在では高卒者85.7%、大卒者79.8%を示していたものの、景気の低迷とともに、高卒者に関しては平成12年3月末現在56.6%、大卒者に関しては平成8年3月末現在47.4%まで低下しました。その後、全国的な景気回復が見られる中で、平成18年3月末には高卒者87.3%、大卒者70.0%まで改善しています（図1）。

しかしながら、若年者失業率（15～29歳）は平成17年で全国平均7.4%に対して13.9%と著しく高くなっています。また、文部科学省が公表している平成17年度学校基本調査によると、新規高卒無業者の割合は、全国平均6.6%に対して沖縄県では3倍以上の20.9%、新規大卒無業者の割合は全国平均17.8%に対して、沖縄県では倍以上の41.5%に及んでいます（図2・3）。

国では、若年労働者の雇用促進や職業能力の開発に向けて、沖縄県と一体となって沖縄振興計画のアクションプランである「職業安定計画」に沿って各種支援措置を実施しています。若年労働者の雇用の促進については、沖縄若年者雇用奨

・沖縄の就職内定率について

励金による雇用機会の創出を支援しているほか、職業教育の充実や地域的な職場体験実習の実施等の就職支援を行っています。また、沖縄県キャリアセンターにおいては、職業意識形成等の人材育成から就職までの一貫した総合的な支援策を開いています。

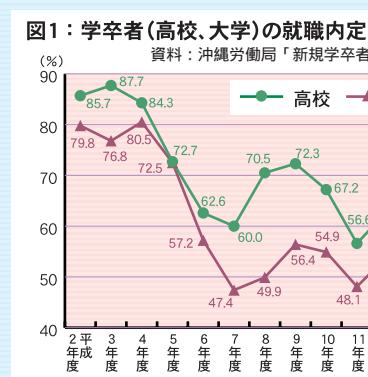
無業者の増加は、全国で65万人とも80万人ともいわれる「一トト」を増加させる要因ともなることがあります。若年者失業率の改善や無業者数の減少のためには、就業意識が低いといわれている若者に目標を明確にさせて自立を促し、就業意識を養っていくことが求められています。

※二トト▼就業・就学及び求職活動もせず、職に必要な訓練も受けていない者をいいます。

図1：学卒者（高校、大学）の就職内定率の推移（3月末現在）

資料：沖縄労働局「新規学卒者の求人・求職の状況」

| 年度 | 高校 | 大学 |
|-------|------|------|
| 2平成年度 | 87.7 | 85.7 |
| 3年度 | 84.3 | 80.5 |
| 4年度 | 72.7 | 76.8 |
| 5年度 | 62.6 | 57.2 |
| 6年度 | 60.0 | 47.4 |
| 7年度 | 57.0 | 49.9 |
| 8年度 | 70.5 | 56.4 |
| 9年度 | 72.3 | 54.9 |
| 10年度 | 67.2 | 51.1 |
| 11年度 | 56.6 | 48.1 |
| 12年度 | 54.1 | 52.7 |
| 13年度 | 53.1 | 51.1 |
| 14年度 | 57.0 | 52.7 |
| 15年度 | 61.8 | 54.2 |
| 16年度 | 64.9 | 54.2 |
| 17年度 | 79.4 | 70.0 |



（左から）仲本総務課長、
松田理事長、港川訓練課長

そこで今回は、全国20ヶ所に所在する「若者自立塾」の七七デルともなった、団体生活等により、社会性や就業意識を身に付けさせ、資格取得により就職を支援している産業開発青年隊を主宰する沖縄産業開発青年協会の松田理事長（写真中央）をはじめ関係者の皆様から、社会人としての資質を身に付けようとも模索する若者達の自立に向けた取り組みについてお話を伺いました。

塾生の反応や変化は？
入塾時、何かおどして人付
き合いが苦手だったような子が変わっていくのが目に見える。我々

ボランティア活動等を取り入れた特別プログラムを実施している。

・自立に向けた若者支援の現場から

（沖縄産業開発青年協会（若者自立塾）インタビュー）

「若者自立塾」の目的やプログラムの内容は？

仕事や求職活動を行っていない、学校に行っていない、職業訓練を受けていない35歳までの未婚の若者を対象に、働く自信と意欲を養い、社会人・職業人として必要な基本的な能力の習得を目指している。基本的生活習慣を確立するための基礎訓練プログラムや資格取得のための資格プログラム、農業体験プログラムの他に、キャンプ実習・スポーツ・ボランティア活動等を取り入れた特別プログラムを実施している。

図2：平成17年3月新規高卒者の卒業後状況 （※全国は内側円、沖縄県は外側円）

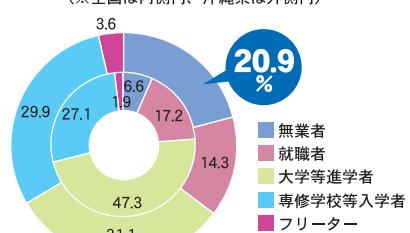
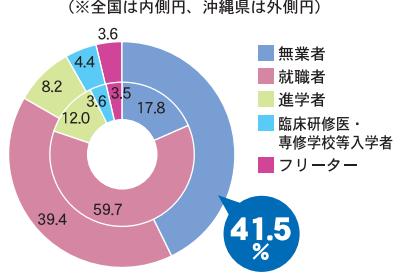


図3：平成17年3月新規大卒者の卒業後状況 （※全国は内側円、沖縄県は外側円）



資料：文部科学省「平成17年度学校基本調査報告書」

1 無業者とは、進学及び就職せず、かつ専修学校等で学業を継続しない、一時的な仕事に就いていない者をいう。

2 調査時に、一時的な仕事に就いた者をフリーターとした。



建設機械実習



溶接実習



物づくり体験



カヌー体験

「塾生の声」聞いてみ隊!!

Q. 自立塾への参加のきっかけは?

A. 仕事を辞めてからは、何を始めても長続きせず、すぐ途中で投げ出していた。「このままでいいのか?」という焦りとともに、自信を取り戻したいと思っていた時に偶然、自立塾の存在を知り、資格を取得し、それを生かした仕事をしたいと考え、入塾を決めた。

Q. 入塾して良かったと思うことは?

A. Aさん／以前、会社で勤めている時、会社の利益のために時間に追われ、焦って行動していた面があった。農業実習の中で、土を耕し、作物を育て、収穫していくことを通して、大変な作業ではあるが、汗を流して働くことを実感し、働く喜びや落ち着ける自分の場所を見つけることができた。

Bさん／毎日の規則正しい生活を通して、特に毎朝の歩行訓練等は、入塾前の鈍った体を鍛え直すことができた。

Cさん／機械実習や農業実習の中で、社会に出ても役に立つ経験をしており、自信がついたと思う。

Dさん／入塾して自分自身が一歩ずつ成長していくことが実感できた。同時に自信にもつながり、今後の仕事に生かしていきたいというやる気もでている。厳しく規則正しい生活を仲間と過ごす中で、今までの苦労を分かち合い、相談し分かれ合えたことが大きかった。人間は一人一人使命を持っていると思う。将来、結婚して、自分の子供を育て、生涯支えていくのだという責任感もでてきた。

Q. 入塾しようかどうか迷っている人達もきっといると思います。そんな未来の塾生に一言メッセージを下さい!

A. 始めは慣れるのも大変で、ホームシックなどもあり、苦しい時もあったが、仲間とともに日々の訓練を通して自信を取り戻し、精神的にも強くなれたと思う。迷っている人達がいれば、自分を変えるきっかけになると思うので、ぜひチャレンジして欲しい。

ご家族の反応やアドバイスは?
自分の子供が日々変わっていく姿を見て喜んでもらっているのは確かである。「うちの子が県外に働きに出て行くきっかけを与えてもらって感謝、感激である。」という意見や、機械実習で運転する姿に感激した家族もいる。一方で、「かわいい子には旅をさせよ」と

の回りのことをすることにより、いかに親に甘えていたかを実感でき、自分自身を見つめ直し、今後の生活の仕方を考えるきっかけになっていると思つ。

また、親元を離れて生活し、身の回りのことをすることにより、いかに親に甘えていたかを実感ついくことが共同生活の利点だろ。

が教えるというよりも、お互いが切磋琢磨しながら成長して変わついくことが共同生活の利点だろ。

親元を離れて生活し、身の回りのことをすることにより、いかに親に甘えていたかを実感でき、自分自身を見つめ直し、今後の生活の仕方を考えるきっかけになつてゐると思つ。

親御さんもいる。両親も、子離れして、子供が進むみち、自らが選択した進路や仕事を応援してもらいたい。

今後の課題や目標は?

近年では、パソコン等のIT技術の習得は、どの産業分野でも重要性が高くなっている。また、老人福祉に関する資格習得コース等も選択肢の一つとして検討しているが、変化する社会の要請に、的確に対応していくことも課題であり、資金等の準備ができれば、段階的に設備を導入していきたい。今後は、インターネット等も活用し、広報・宣伝活動を行い、沖縄を含め全国の多くの若者達の、自主・自立の精神を養い、社会へ輩出していきたい。

規則正しい集団生活の中で、自信と労働意欲を養い、自立を促し、多くの若者を社会へ輩出している同協会の取組みは重要な能力、連帯意識や責任感などの人間として最も根本的なことが不可欠であると感じました。

支援する取組みが結びつき、継続されしていくことが、厳しい雇用情勢を少しずつ打開する力となるのではないかでしょうか。

(調査企画課／石川正之・東一郎)

規則正しい集団生活の中で、自信と労働意欲を養い、自立を促し、多くの若者を社会へ輩出している同協会の取組みは重要な能力、連帯意識や責任感などの人間として最も根本的なことが不可欠であると感じました。

沖縄には下記の2つの支援施設があります
社団法人 沖縄産業開発青年協会（青年隊）
〒905-1204 沖縄県国頭郡東村字平良380-1
☎ 0980-43-2118 ☎ 0980-43-2505
<http://www2.tontonme.ne.jp/users/kaihatsu/>

社団法人 日本青少年育成協会
沖縄県国頭郡本部町字伊豆味1204
☎ 0980-47-7400
東京都新宿区神楽坂6-35-1教育センタービル2F
☎ 03-3269-8411
<http://www.jyda.jp/>